

第58回 静岡県高等学校

総合体育大会

テニス競技

期 日	平成22年5月8日、9日、15日、16日 22日、23日（予備日 29日、30日）
会 場	静岡市 : 草薙、西ヶ谷、有度山 浜松市 : 花川 富士市 : 富士市営
主 催	静岡県高等学校体育連盟 静岡県教育委員会 静岡県テニス協会
後 援	(財)静岡県体育協会
主 管	静岡県高等学校体育連盟テニス専門部 静岡県テニス協会

大会役員

顧 問	静岡県教育委員会教育長	安倍 徹
	(財)静岡県体育協会会長	斉藤 斗志二
	静岡県教育委員会教育次長	寺田 好弥
	静岡県教育委員会スポーツ振興課長	松井 和子
	静岡県教育委員会学校教育課長	石川 恵一朗
	静岡県高等学校体育連盟前会長	松浦 博實
会 長	静岡県高等学校体育連盟会長	植田 質
副 会 長	静岡県高等学校体育連盟副会長	栗原 進
	静岡県高等学校体育連盟副会長	松田 清孝
	静岡県高等学校体育連盟副会長	高林 清和
	静岡県高等学校体育連盟副会長	坪井 正明
	静岡県高等学校体育連盟テニス専門部長	鈴木 忠晴
大会委員長	静岡県高等学校体育連盟理事長	武田 知己

競技役員

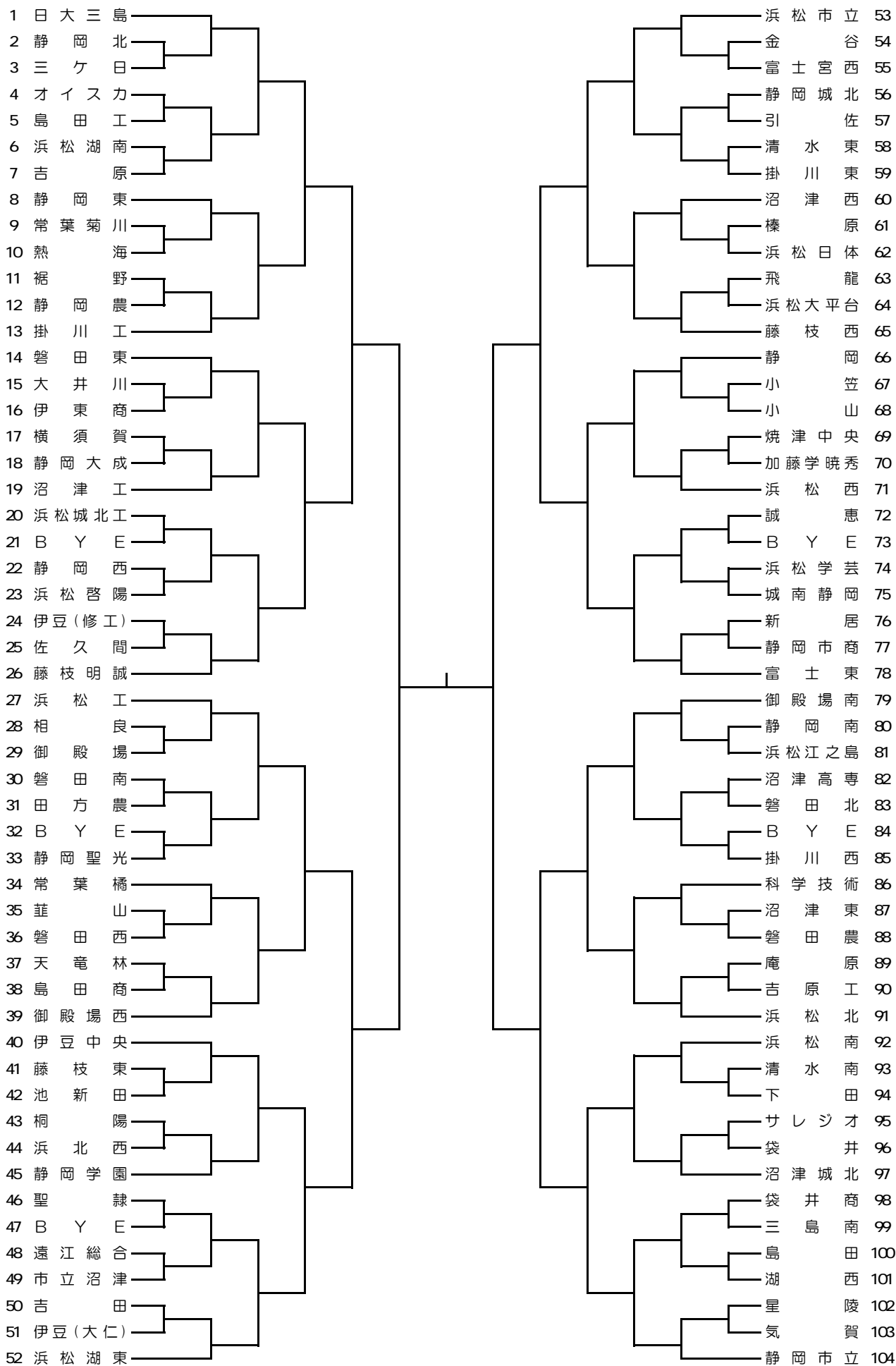
顧問	宇田川喜八郎（県テニス協会会長）		
委員長	山内 俊彦（磐田南）		
副委員長	小林 雄一（沼津西） 栗原 偉恒（清水南） 青木 和彦（浜松北）		
委員	大平 和俊（富士東） 国府方雅晴（日大三島） 鈴木 秀人（韮山） 中里 武彦（伊豆中央） 井筒 守（静岡学園） 長谷川智也（静岡市立） 村上 紀彦（城南静岡） 橋本斗美子（静岡市立） 山崎 隆久（浜松工） 藤田 貴義（浜松湖東） 小室 寿弘（浜松市立） 下位 幹男（引佐） 村松 栄一（浜松市立） 成島 修（科学技術）		
レフェリー	岡本 直哉（浜松湖南）		

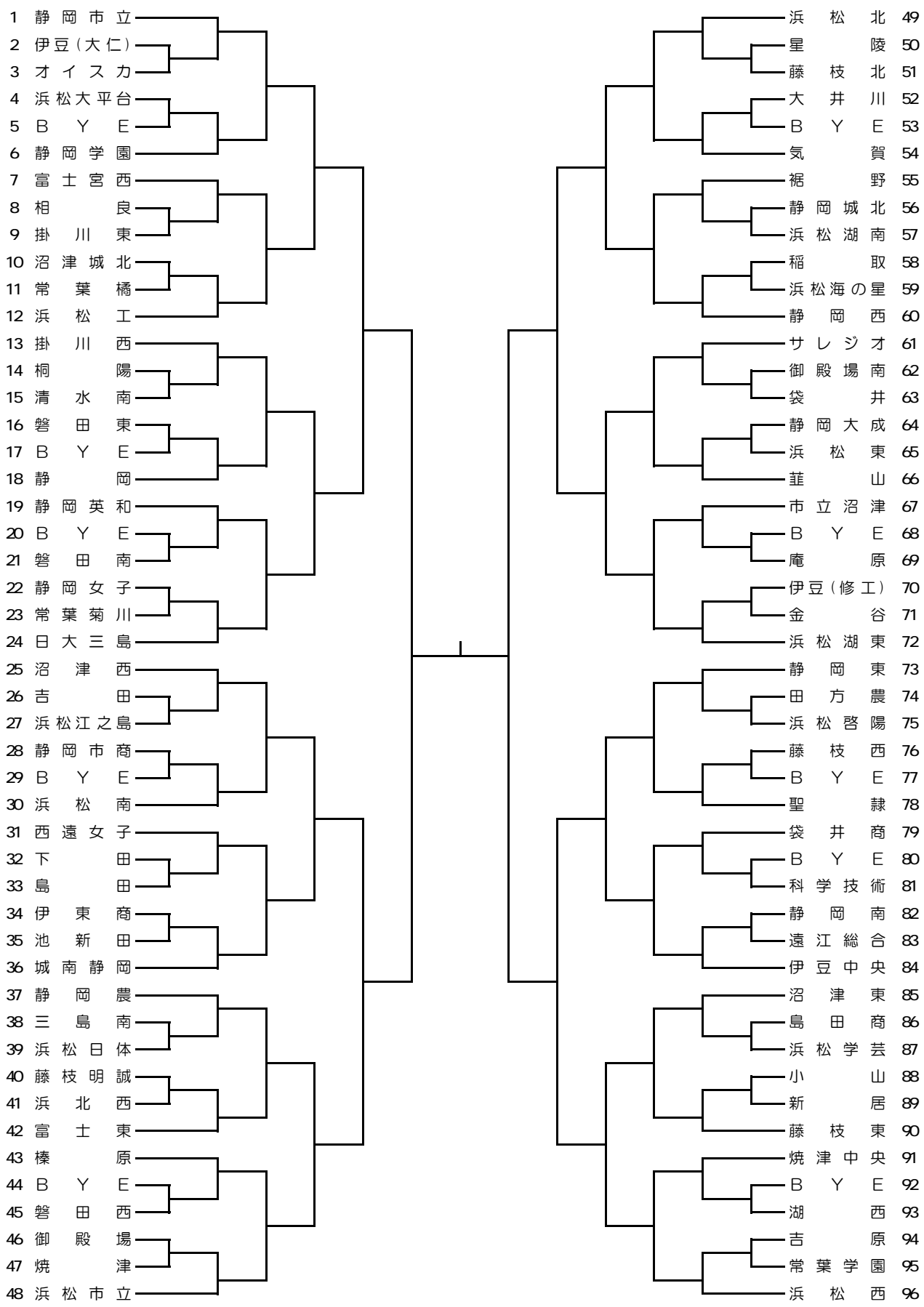
《連絡先》

委員長	山内 俊彦（磐田南）	0 5 3 8 - 3 2 - 7 2 8 6
副委員長 （東部）	小林 雄一（沼津西）	0 5 5 - 9 6 2 - 0 3 4 5
副委員長 （中部）	栗原 偉恒（清水南）	0 5 4 - 3 3 4 - 0 4 3 1
副委員長 （西部）	青木 和彦（浜松北）	0 5 3 - 4 5 4 - 5 5 4 8
高体連理事長	武田 知己（事務局）	0 5 4 - 2 4 8 - 7 4 4 8

《会場住所》

草薙	静岡市駿河区栗原19-1	電話：0 5 4 - 2 6 1 - 9 2 5 6
西ヶ谷	静岡市葵区西ヶ谷8-1	電話：0 5 4 - 2 9 6 - 1 9 0 0
有度山	静岡市駿河区小鹿1883-4	電話：0 5 4 - 2 6 4 - 2 7 2 2
富士市営	富士市中野字東三倉671	電話：0 5 4 5 - 3 7 - 2 2 8 0
花川	浜松市中区西丘町724	電話：0 5 3 - 4 3 7 - 0 6 0 5

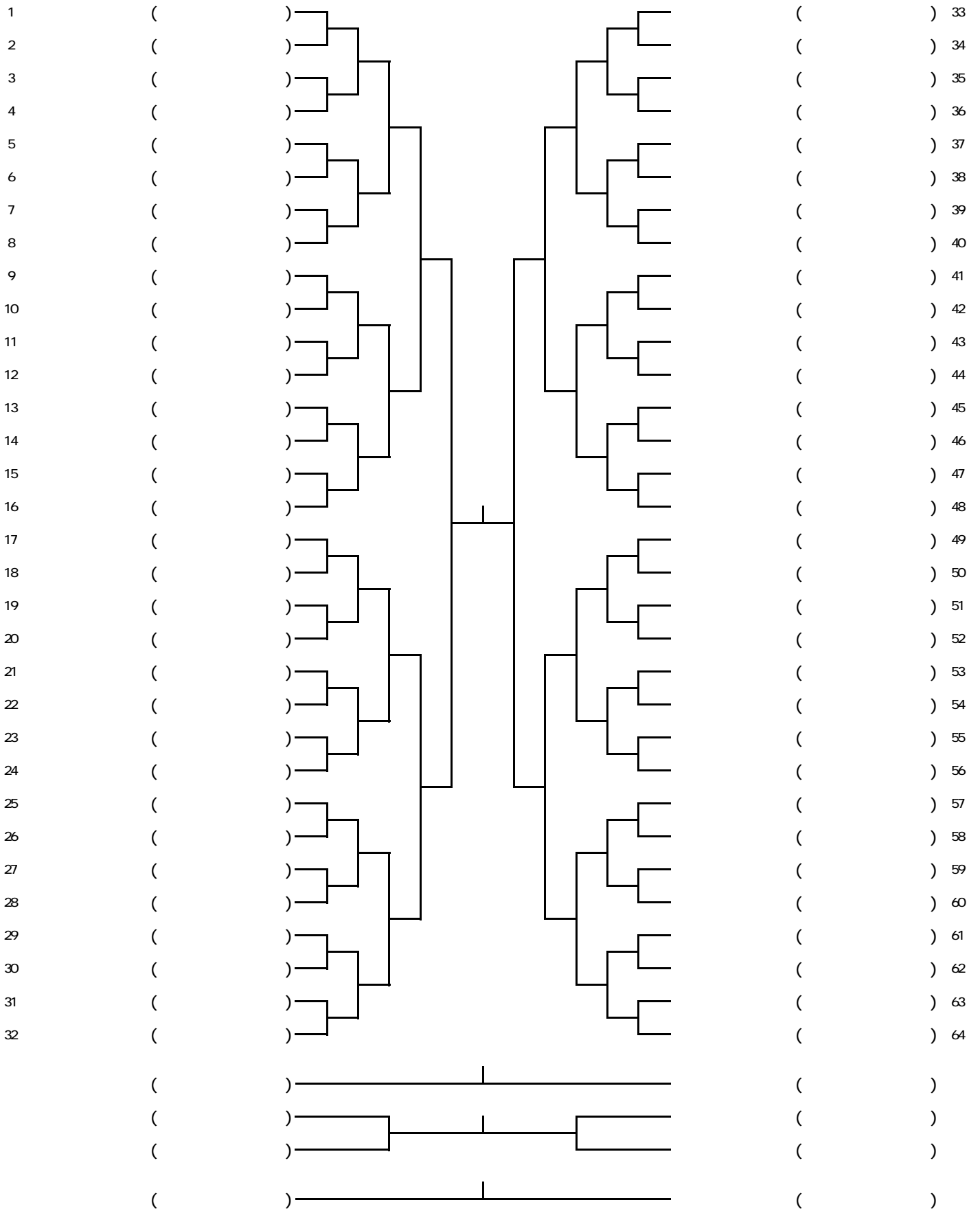




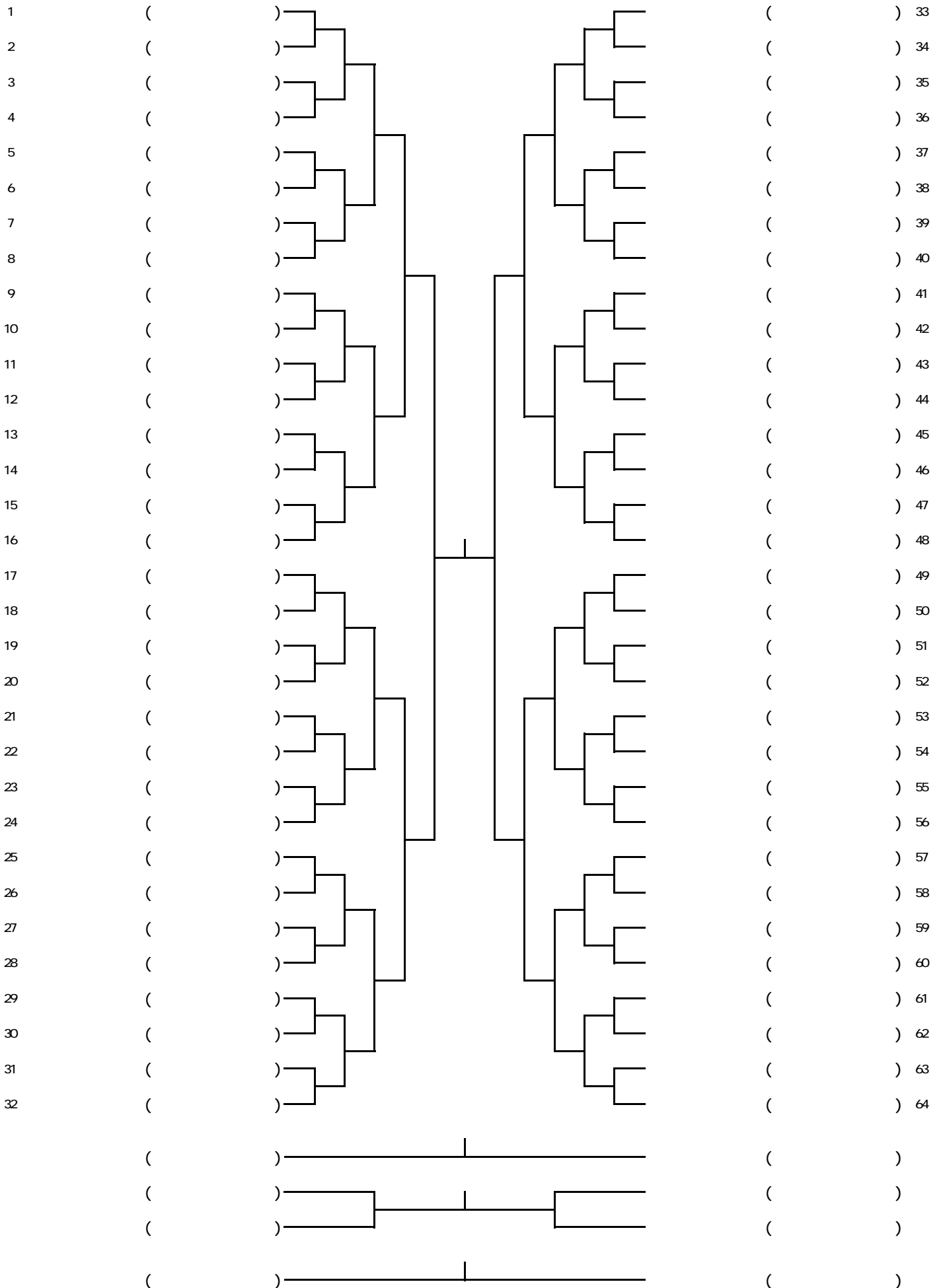
- 1 静岡市立
- 2 伊豆(大仁)
- 3 オイスカ
- 4 浜松大平台
- 5 B Y E
- 6 静岡学園
- 7 富士宮西
- 8 相良
- 9 掛川東
- 10 沼津城北
- 11 常葉橋
- 12 浜松工
- 13 掛川西
- 14 桐陽
- 15 清水南
- 16 磐田東
- 17 B Y E
- 18 静岡
- 19 静岡英和
- 20 B Y E
- 21 磐田南
- 22 静岡女子
- 23 常葉菊川
- 24 日大三島
- 25 沼津西
- 26 吉田
- 27 浜松江之島
- 28 静岡市商
- 29 B Y E
- 30 浜松南
- 31 西遠女子
- 32 下田
- 33 島田
- 34 伊東商
- 35 池新田
- 36 城南静岡
- 37 静岡農
- 38 三島南
- 39 浜松日体
- 40 藤枝明誠
- 41 浜北西
- 42 富士東
- 43 榛原
- 44 B Y E
- 45 磐田西
- 46 御殿場
- 47 焼津
- 48 浜松市立

- 49 浜松北
- 50 星陵
- 51 藤枝北
- 52 大井川
- 53 B Y E
- 54 気賀
- 55 裾野
- 56 静岡城北
- 57 浜松湖南
- 58 稲取
- 59 浜松海の星
- 60 静岡西
- 61 サレシオ
- 62 御殿場南
- 63 袋井
- 64 静岡大成
- 65 浜松東
- 66 葦山
- 67 市立沼津
- 68 B Y E
- 69 庵原
- 70 伊豆(修工)
- 71 金谷
- 72 浜松湖東
- 73 静岡東
- 74 田方農
- 75 浜松啓陽
- 76 藤枝西
- 77 B Y E
- 78 聖隷
- 79 袋井商
- 80 B Y E
- 81 科学技術
- 82 静岡南
- 83 遠江総合
- 84 伊豆中央
- 85 沼津東
- 86 島田商
- 87 浜松学芸
- 88 小山
- 89 新居
- 90 藤枝東
- 91 焼津中央
- 92 B Y E
- 93 湖西
- 94 吉原
- 95 常葉学園
- 96 浜松西

H22



H22



<注意事項②>

1. 競技が円滑に行われるように次の事項について確認をして下さい。

- ①服装はテニスウェアとします。(ただし、Tシャツ不可、襟付きシャツとする。) ロゴの大きさに注意して下さい。またラケットのストリング上のロゴは禁止です。
- ②試合は 6-6 でタイブレイク方式を採用します。 セットブレイクルールは採用しません。
- ③試合前のウォームアップは3分とします。20秒ルール、90秒ルールを厳守して下さい。 タイブレイク中のコートチェンジ時に、選手がベンチに寄ることはできません。
- ④オーダーオブプレイで試合を進行しますので、前の試合が終了しましたら、すみやかに試合に入って下さい。
- ⑤携帯電話は、電源が入ったままコート内への持ち込みはできません。
- ⑥試合の進行を妨げる発声や、相手を威嚇するような言動は禁止します。
- ⑦応援は、以下のルールを守られなければいけません。
 - ・インプレー中(サービスのためのレディーポジションに入ってから審判がそのポイントの判定をするまで)の応援は一切禁止です。相手選手への中傷は厳禁です。**歌や複数部員による連呼は試合前の練習のみにしてください。**
 - *プレーに支障があると感じられる場合には、レフェリーに異議を申し立てることができます。
- ⑧その他のルールに関しては「ルールブック」に準じます。

2. 団体戦の試合方法について

- ①選手オーダーについて
 - ・選手オーダーは、登録選手の中で、各対戦ごとに組み替えができます。シングルスについては、登録順位が上位の者がオーダーの上位となります。ただし、1人の選手が単複を兼ねることはできません。
- ②試合の方法について
 - ・試合は3ポイント制(ダブルス,シングルスNo.1,No.2の順)で行い、勝敗が決定した時点で打ち切りとします。
 - ・試合進行のため、離れたコートを使用する場合や、3面同時進行もあります。
- ③試合進行について
 - ・試合前、両校監督・選手全員はネットを挟んで整列の上、挨拶を交わし、オーダー用紙の交換をして下さい。監督は、相手校に対し選手の紹介・確認を行って下さい。
 - ・試合は相互審判とし、両校より主審または副審を出して下さい。主審・副審のジャッジラインについては、試合前、両校で確認して下さい。なお、審判の生徒が不足した場合は、本部まで連絡して下さい。(判定をめぐるトラブルがありますので、信頼のおける生徒を指名してください)
 - ・試合前のウォームアップは、トスによるエンド決定の後に行います。選手は、試合時の服装で3分間のウォームアップを行い、ウォームアップ終了後ただちに試合を始めて下さい。
 - ・敗者校は試合ボールのうち4個を持ち帰ります。残りのボールは勝者校が本部に届けて下さい。
- ④ベンチコーチについて
 - ・ベンチコーチに入ることができるのは、登録された監督または選手のうち、1面につき1名のみです。また、シングルの試合に限り、1校1名のボールパーソンを認めます。なお、スコアボード係はつけても構いません。
 - ・ベンチコーチの助言は、エンド交代時に限ります。その時間は60秒以内です。

3. 審判方法について

- ①主審は秒まで計測が可能な時計を所持して下さい。選手がコートに入らなかった場合、時間を計測し始めて下さい。選手を確認して、1stゲームのサービスとエンドを決めます。
- ②3分間の練習を行わせて下さい。(3 minutes for warm up, 2 minutes, 1 minute, Time)
- ③試合が始まったら、コールは大きな声で行います。ハンドシグナルを行なってはいけません。
- ④20秒ルール・90秒ルールを守らせて下さい。
- ⑤コールを誤った場合には速やかに訂正して下さい。特にアウト・セーフについて、選手からのアピールの後で訂正してはいけません。自分で判断できない問題については、コートレフェリーを呼びその指示に従って下さい。
- ⑥主審と副審は次のことに注意して下さい。
 - (1) 副審の責任ラインは、右図太線のラインである。それ以外のラインについてジャッジをしてはならない。
 - (2) 副審は、まず、右図Aの位置に立ち、サーブの判定(サービスラインと自分の側のサイドライン)をする。フットフォールの判定は主審が行う。
 - (3) サーブ判定後はBの位置に速やかに移動し、自分の側のサイドラインを判定する。
 - (4) 判定は、アウト、フォールののみ大きな声で行う。
 - (5) オーバールールをしてはいけない。
 - (6) 主審は、自分の責任ラインについて副審に判定のアドバイスを求めてはならない。(副審も同様である。)

